

ナミテントウの斑紋タイプ (兵庫県朝来市)

近藤 伸一¹⁾

ナミテントウの採集

朝来市上八代の山際、標高 250m の南西斜面に位置する神社の一角に、越冬のために集まったと思われるナミテントウを 463 個体採集して斑紋の調査を行った。

2013 年 11 月 24 日、午前 11 時ごろ、神社林の一角、陽だまりになった数本のカエデとコンクリート電柱を中心として多数のナミテントウが飛び回っているのに気づき、付近を調査した。数本のカエデの幹と、電柱、標柱に集中してナミテントウが、歩き回っていた。特に電柱に多く、地際から高さ 1.5m の範囲で 50 個体を数えた。11 時から約 1 時の間にナミテントウ 334 個体、カメノコテントウ 2 個体を採集した。この場所は 15 時ごろには山影となり、ナミテントウは見られなくなった。その後は 11 月 30 日、12 月 2 日に追跡調査を行ったが、それぞれ 7 個体、9 個体しか確認できなかった。

2013 年 12 月 5 日、快晴で気温が高かったため(現地の気温 15℃) 同地を再調査した。1 か所で一度に見られる数は 3～4 個体であったが、4 本のカエデと電柱、標柱の狭い範囲で何度も巡回して、12 時から 1 時の間

にナミテントウ 129 頭、カメノコテントウ 1 頭を採集した。この日は飛んでいる個体をほとんど見かけなかったが、動きは活発で、同じ場所で採集し尽くしたと思っても数分後にはどこからか現れた。

この地点の周辺には山際に接して、日がよく当たるカエデ並木があり、ナミテントウも見られたが、その密度は低く、樹木 10 本あたり 3～5 個体程度であった。

ナミテントウの斑紋タイプ

ナミテントウには、翅の斑紋に遺伝的多型が存在し、下記の 4 タイプに分類されている。斑紋のタイプは、北に行くほど紅型が多く、南に行くほど二紋型が多いとされているが、最近では北でも二紋型の割合が増えており、その原因は地球温暖化ではないかなどと言われている。

採集したナミテントウの斑紋パターンを調べた結果は表のとおりで、二紋型の割合が予想以上に高かった。なお二紋型、四紋型とまだら型の間中型と思われるものが 3 個体あり、1 個体は二紋型(写真 二紋型中間型)2 個体は四紋型(写真 四紋型中間型)にカウントした。

表 観察されたナミテントウの斑紋タイプの個体数とその割合

タイプ	11月24日		12月5日		合計	
	個体数	割合(%)	個体数	割合(%)	個体数	割合(%)
二紋型 (黒地に赤星 2 個)	258	77.2	92	71.3	350	75.6
四紋型 (黒地に赤星 4 個)	35	10.5	18	14	53	11.4
まだら型 (黒地に赤星 5 個以上)	8	2.4	8	6.2	16	3.5
紅型 (赤地に黒星)	33	9.9	11	8.5	44	9.5
合計	334	100	129	100	463	100

¹⁾ Shinichi KONDO 兵庫県朝来市



写真1 ナミテントウが集まる神社林, 写真右の電柱・標柱と4本のカエデに集中していた.

二紋型



四紋型



まだら型



紅型

